



日本ルイ・アームストロング協会 ワンダフルワールド通信 No.98

日本ルイ・アームストロング協会（ワンダフルワールド・ジャズ・ファウンデーション=WJF）2018年3月発行
〒279-0011 浦安市美浜 4-7-15 WJF 事務局 TEL:047-351-4464 FAX:047-355-1004 Email: saints@js9.so-net.ne.jp

ホームページ <http://wjf4464.la.cocacn.jp/>

発行人 代表・外山喜雄 編集長・山口義憲 編集・小泉良夫

第1回ジャズ大賞、文部科学大臣表彰のダブル顕彰
外山夫妻初めてのニューオリンズ訪問から50年
デキシーセインツ結成43年…みんなまとめてお祝いするコンサート

「外山喜雄とデキシーセインツの素敵な仲間たち」

2月10日、300人を超える満員の観衆を集めて東京・銀座ヤマハホールで開催

外山喜雄さんの一般社団法人 日本ジャズ音楽協会(石井一会長)からの第1回「ジャズ大賞」受賞と文部科学大臣、林芳正相からの「文部科学大臣表彰」(10面に詳報)というダブル顕彰に加え、外山夫妻初めてのニューオリンズ訪問から50年、外山喜雄とデキシーセインツ結成43年…これらをみんなまとめてお祝いするコンサート「外山喜雄とデキシーセインツの素敵な仲間たち」が2月10日、東京・銀座ヤマハホールに300人を超える満席のお客様を迎えて華やかに開催された。その詳細をお届けする。

(小泉良夫)

主催:ジャズ大賞受賞をお祝いする会、共催:日本ルイ・アームストロング協会=WJF
協力:JAZZ JAPAN、JAZZ WORLD、ジャズ批評



写真上は、前田憲男さん(p)を迎えての外山喜雄とデキシーセインツ。同下は、かつてのメンバーだった後藤雅広さん(cl)と松本耕司さん(tb)が加わり、椅子に座ってブリザベーションホールのスタイルで演奏する外山さん(中央)。ドラムは木村“おうじ”純土さんに代わる。

外山喜雄とデキシーセインツを彩った仲間たちが次々登場
外山夫妻ジャズ人生、たっぷり3時間、50年の夢が蘇る
遠来のお客様も多く300超の全席満杯の聴衆で詰め尽くされる

“ジャズの王様”サッチモへの敬愛をこめて
「ウエストエンド・ブルース」デュオで幕開け

熊本、神戸、京都、彦根、長野、宇都宮など遠来のお客様も含めて全席満員の聴衆を迎えて午後2時開演。外山夫妻のデュオによる、お2人のジャズ人生に大きな影響を与えた「ウエ



ストエンド・ブルース」で幕を開ける(写真上)。司会の露木茂さん(元フジテレビ・アナウンサー)と司会アシスタント、山口義憲さん(WJF会報ワンダフルワールド通信編集長)が登場(写真右)して夫妻がニューオリンズに渡って以来、50年にわたる活動を紹介。また昨年の日本ジャズ音楽協会からの第1回「ジャズ大賞」受賞が、まさにジャズレコード発

売100年を記念すべき年にふさわしい吉報だったこと、さらに文科大臣表彰状への歩みを伝える。夫妻はこれに答えてルイ・アームストロングへの敬愛、ニューオリンズへの愛など得難い経験などを語る。



ジャズ界の大先輩、前田憲男さんが“祝演”
夫妻の多彩な活動がスクリーンに投影される

演奏に入ってまずは、お祝いに駆けつけたジャズ界の大先輩、前田憲男さん(p=写真下中央)と恵子さんのバンジョーをフィーチャーしてのセインツによる「ハロー・ドリー!」、そして「世界は日の出を待っている」。

次いで外山夫妻のニューオリンズ滞在中の出来事が次々と写真でバックスクリーンに映し出される。移民船ブラジル丸での出向風景、船上でバンジョーを弾く恵子さん(なんかまだ女子学生って感じ)、1968年1月22日、ニューオリンズ着。プリザベーションホ



ールでのパンチ・ミラー(tp)らオールド・ミュージシャンたち、彼らに加わって熱演する外山夫妻、サッチモの少年

院時代の集合写真、楽器プレゼントの模様、ニューオリンズに壊滅的な被害をもたらしたハリケーンの被災状況、東日本大震災の悲惨な写真、ニューオリンズから慰問にやってきた若手ミュージシャン、日米交流、被災地気仙沼から

ニューオリンズに渡ったスウィングドルフィンズ…外山夫妻の活動の一端があれこれ披露されていく。まさにジャズ大賞、文科大臣表彰にふさわしい活躍。

デキシーセインツ結成時代のメンバーが登場
活躍中の名ドラマー木村“おうじ”純士さんも

ここでセインツ結成時代のメンバー、後藤雅広さん(cl)、

松本耕司さん(tb)、それに外山夫妻がニューオリンズ滞在当時、現地で大変お世話になったという早稲田ニューオリの先輩、木村陽一さん(ds)のご子息で、いまや名ドラマーとして活躍中の木村“おうじ”純士さんが登場して

の演奏は、「ポール・バーバリンのセカンドライン」、讃美歌312番「星の世界」、管楽器の3人は椅子に座ってプリザベーション・ホールスタイルでの演奏。次いで

クラリネットの鈴木孝二さんはじめ素敵

な仲間の皆さんが揃ってステージに上がっての「バーボン・ストリート・パレード」(写真上)。そしてディズニー・ミュージックへとつないでいく。



デクシーセイイツは1983年から2006年までの23年間、東京ディズニーランドに出演し、1998年から8年間はここTDLのニューオリンズ広場で演奏している。「サッチモとディズニー、この2人との出会いが私たちに素晴らしい恩恵を与えて下さいました」と外山夫妻は常々話されている。バックスクリーンには当時、派手な衣装に着飾ってTDLで活躍するセイイツの皆さんが映し出されていく。おっ、ミッキー・マウスとも共演しているんですね。曲はディズニー映画、ジャングルブックから「人間のようになりたい」。

「ジャズ大賞」を贈った日本ジャズ音楽協会 石井一会長が夫妻の輝かしい活動を絶賛

ここで第1部の終了前に外山さんに「ジャズ大賞」を贈った一般社団法人 日本ジャズ音楽協会の石井一会長(元国務大臣)がステージに上り(写真右下の中央)、外山さんのこの日の演奏、輝かしい活動を絶賛。そして、こう続けた。「ここ十数年、ジャズの関係が表彰されていないんですね。なぜかと文化庁に尋ねると、ジャズはアメリカのミュージックだからというのです。日本にもそれ



以上のミュージシャンがたくさんいるのに…」と。もう何度も会報でご紹介させていただいているが、



石井さんのお父上はかつて日本マーキュリーの社長をし

ていらして1953年、不滅の米ジャズグループJATPを日本に招聘し、日本に嵐のようなジャズブームをまきおこした立役者。当時、石井さんは18歳の高校生。今や伝説となったミュージシャンたちを乗せた20台のオープンカーの先頭車両を運転し、羽田から銀座までの2時間、沿道を埋めつくしたファンの中を進んで行った。ご自身も、テナーサックスを吹き、渋いボーカルも聞かせるほどの一面を持っている。それだけにジャズへの思い入れは格別のものがあり、「晩年はジャズのために貢献しようと思っています」と語り、会場から万雷の拍手を受ける。

石井さんは素晴らしいお話を次々と披瀝されたあと、外山さんの功績の4分の3は恵子さんの賜物で、これらの賞は恵子さんに贈りたい程ですと語り、「お2人はまさに“日本の宝”です」とまで褒め讃える。涙ぐむ外山夫妻。そして石井さんが取り出した色紙には墨痕鮮やかに「この道一筋に生きる 石井一」としたためられ、外山夫妻に手渡された(写真左下の下段)。万感胸に迫る外山夫妻だった。

ニューオリの後輩もお祝いに馳せ参じる 半数以上が女性という同クラブから3人

第2部に入って外山夫妻の出身母体、早稲田大学ニューオールリンズ・ジャズクラブの現役メンバーが登場(写真上)する。外山夫妻はここで出会い、結婚へと進んだのだ。その後輩たちがお祝いに駆けつけてくれた。恵子さんが在籍していた当時、恵子さんが紅一点だったというが、昨年60周年を迎えた早稲田ニューオリでは女性も目立ち、半分以上が女性だそうだ。この日のメンバー7人のうち、トランペットとベース、ピアノの3人が女性というのも頼もしい。なかなか素敵なバンドだった。

司会の露木茂さんは早稲田大学放送研究会の出身で、現役時代もしばしば学生バンドのステージに立って司会を務めていたという大ベテラン。この日も巧



妙、洒脱な司会でステージを盛り上げていく。トロンボーン
の矢野真隆君が「外山さん、受賞ほんとうにおめでとござ
います」。演奏は「マホガニー・ホール・ストンプ」へと入る。

**初代ベーシストはあの脚本家、竹山洋さん
「音程は悪いがリズム感がいい」と言われ…**

外山夫妻は1969年、一時帰国した際、こ
の早稲田ニューオリ仲間とニューオリンズ・セ
インツというバンドを結成している。その初代
ベーシストが何とあの脚本家の竹山洋(本
名:武田淳一)さん(写真右)。ジャズではなく
て脚本家として大成し、NHKの大河ドラマ
「秀吉」、「利家とまつ〜加賀百万石物語〜」
をはじめ多数の脚本を手がけ、紫綬褒章、
旭日小綬章を受章されている。「勲章なんて見ても何も
ならないから、稼げ！」と奥様に言われたとか、会場の笑
いを誘う。もちろん竹山さんにも演奏していただく。「昔は
汚いニューオリの部室で練習していたんです。音程は悪



いけど、リズム感はいいからドミソミ、ドミソミだけやってる！
って言われました。練習しすぎて指の皮がむけてしまった
ことも。でも、脚本の仕事始めて、僕の書くものにはリズ
ム感があるといわれたんです！！」。竹山さんとニューオリ
の後輩たちに外山夫妻も加わって「オーバー・ザ・ウェイブ
ス(波頭を越えて)」を演奏(写真上)する。

**聴かせどころは現役セインツメンバー5人
次々とフィーチャーされて得意の曲を熱演**

続いてこの日の聴かせどころでもあるセインツの現役
メンバーを次々フィーチャーした5曲が演奏される。ト



ロンボーンの粉川忠範さんの「マーギー」、ベースの
藤崎羊一さんと木村”おうじ”純士さん(ds)による「ビッ
グノイズ・フロム・ウィネトカ」、クラリネットの広津誠さん
の「メモリーズ・オブ・ユー」、サバオ渡辺さんの「シン
グ・シング・シング」、鈴木孝二さんが久々に登場して
恵子さんのバンジューで「テネシー・ワルツ」。

そのあと、突然登場して会場を沸かせたの
が水森亜土さんと2人の美女ローズマリー
ダンサーズ(写真上)による「プリーズ・ドント・
トーク・アバウト・ミー」、そして「カウカウ・ブ
ギー」。このチームはセインツのライブに、し
ばしば登場していて、セクシーなダンスで
会場を魅了している。



写真は、時計回りに粉川、広津、渡辺、鈴
木&恵子、藤崎&木村の皆さん



ここでWJFを代表して故サー・チャールズ・トンプソン夫人の牧子トンプソンさんから外山夫妻へ会場からの拍手とともに花束贈呈(写真右)。続いて掛け声も高くニューオリンズを彷彿させる「セカンドライン」が会場を廻った。



いよいよフィナーレに近づき、サッチモからのメッセージ「この素晴らしき世界」(左下のテキスト)がバックスクリーンに映し出される。

「私たち50年の思いを伝えるものです」と外山夫妻。最後はもちろん全員登場で「聖者の行進」(写真上)。アンコールまで飛び出して午後5時、終演した。

感動のシーンは終演後の打ち上げ懇親会へ 夫妻を支えた方々から心温まるメッセージが

感動のシーンはこの後、近隣のライオンビアホール・クラシックホールでの打ち上げ懇親会に持ち越される。中村宏さん(ジャズ評論家、防衛医大名誉教授、医学博士)による祝辞と乾杯のご発声でスタート(写真左下)。このコンサートの発起人の皆さんや外山夫妻を支えて下さった方々



が一堂に会し、ここでもみなさんから素敵なメッセージとご祝辞が外山夫妻に贈られる。ワインやビールを傾けながら和やかな歓談が続く。外山夫妻は、一段高くなったステージからお世話になった方々を次々と壇上に招き、午後7時まで延々とお礼とともにさらに入念にお世話になった方々を皆さんにご紹介するシーンが続いた。日本ジャズ

音楽協会理事長の佐藤修さんとジャズ評論家の故いソノてルヲ夫人、磯野博子さんによる三本締め(次ページ写真右上)の中締めでお開きとなる。外山夫妻にとってまさに最高の一日だったのではないのでしょうか？

夫妻の思いを伝えるサッチモからの伝言 「この素晴らしき世界」がバックスクリーンに

若い連中に、時々こんな事を言われるんだ
“ねえ親爺さん、何処が‘ワンドラマチックなワールドなんだい？
世界中に戦争が溢れ、人々は飢え、地球は汚されている…
とても、ワンドラマチックとは思えないよ！”ってね
でもね、こうは思えないかい
世界が悪いのではなく、私達が世界にしていることが悪いんだと
そして、皆があきらめないで努力さえすれば、世界はもっともっとワンドラマチックなワールドになるって…
一番の秘訣は、ラブ、ベイビー、ラブ…愛さ！！
もし、我々がもっともっと、お互いを愛し合いさえすれば、多くの問題が解決する！！
そうになったら、世界はそれこそ最高…だから、この親爺はいつも、こう歌ってるのさ…
この目に映る全てのモノが美しい、なんて素晴らしい世界なんだろう



打ち上げ懇親会で乾杯する皆さん。前列左から佐藤修さん、同美智子夫人、磯野博子さん、牧子トンプソンさん、中村美代子さん、元ニューオリンズ日本総領事の坂戸勝さん。

**外山夫妻が当日のプログラムに寄せた
「初めてのニューオリンズから50年」
「外山喜雄とデキシーセインツの軌跡」**

1963年、ジョージ・ルイス、ルイ・アームストロング来日。サッチモのラッパを吹かせてもらおう！ このころ、外山喜雄、恵子の出会いも!!!

1966年、結婚、就職

1967年、移民船ブラジル丸でニューオリンズへ

1969年、一時帰国。初代のバンド「ニューオリンズ・セインツ」結成

1971年、再度ニューオリンズへ

71年秋から72年夏、イギリスのバリー・マーチン楽団に加入、ヨーロッパ各地、全米をツアー

1973年帰国、75年「外山喜雄とデキシーセインツ」を結成
アメリカの伝説のジャズスターたち、アルトン・パーネル(p)、
ドン・ユール(p)、ワイルド・ビル・デビソン(cor)、ラルフ・
サットン(p)等を招聘、レコードを残す

1961年、大丸屋上でサッチモ祭をスタートさせ、2014年まで、34回毎年開催した

サクラメント・ジャズ祭他に出演後、1983年ディズニールランドに出演をはじめ98年からは、ニューオリンズ広場のジャズバンド、ロイヤルストリートとしてドラマー、ジミー・スミスさんらとともに出演、人気を博した セインツのメンバーはこのころから20年近く、アメリカツアーと楽器プレゼント等活動を共にしている ロスのジャズ祭出演とニューオリンズへの毎年の団体旅行はじまる

1994年、日本ルイ・アームストロング協会をスタートし、「銃に代えて楽器を」の活動を開始する 伝説のピアニスト、サー・チャールズ・トンプソンさん等をゲストに迎えた例会もスタート

2003年、セインツで初めてニューオリンズのサッチモジャズ祭、「サッチモ・サマーフェスト」出演、以後2016年まで連続14回出演、ジャズ祭の大人気となる

2005年、「銃に代えて楽器を」が外務大臣表彰、ニューオリンズ日本総領事館で8月5日祝賀パーティー。しかし3週間後ハリケーン・カトリーナが街を襲いニューオリンズが壊滅的被害を受ける

10月10日、日本で初のニューオリンズ支援コンサートとなった「緊急サッチモ祭」をエビスガーデン・プレイス、サッポロビール銅釜広場で開催



2011年3月、東日本大震災で日本が大被害を受ける。ニューオリンズの街から、「これこれまで日本からしてくれたことへの恩返し」と、津波で楽器を亡くした気仙沼の子供ジャズバンド「スウィングドルフィンズ」に楽器が届き復活。ニューオリンズの子供たちと、楽器を贈られた東北の子供たちを会わせてあげたいという夢が生まれる

2012年秋、ニューオリンズのスラムの高校のバンドの東北慰問がアメリカ大使館、国際交流基金、ティピティナス財団ほかの協力で実現。この年、世界で活躍し『日本』を発信する日本人として夫婦で国家戦略大臣感謝状を贈られる。翌2013年には、気仙沼のスウィングドルフィンズがニューオリンズを訪問、サッチモ・サマーフェストに出演、現地の感動を呼び大喝采を浴びた

私たちの活動は、日本ルイ・アームストロング協会会員、スタッフ、そしてジャズファン並びにご協力者の皆さま、そしてセインツのメンバーに支えられて広がり、日本からニューオリンズへ海を渡った楽器は850点をこえました。現地では日本からの楽器がきっかけとなり活躍するジャズマン、有名となったスターも誕生しています。

この度、第1回ジャズ大賞、また文部科学大臣表彰という光栄に浴しましたが、永年支えていただいた皆様とともに、皆様を代表して私がいただいた栄誉と思っております。

また、50年前、一緒に初めてニューオリンズの地を踏み、苦労を共にし、また、活動の仕事のほとんどをやってきている外山恵子に心よりの感謝と尊敬をささげたいと思います。

また、50年前、一緒に初めてニューオリンズの地を踏み、苦労を共にし、また、活動の仕事のほとんどをやってきている外山恵子に心よりの感謝と尊敬をささげたいと思います。

<海外からお祝辞 コングラッチュレイション！>

ニューオリンズジャズ博物館 グレグ・ラムバウジーさん

私達ニューオリンズ市民は、この街のジャズ支援のために



外山ご夫妻がしてくださったことに、心より感謝しています。…外山夫妻は国際的なアンバサダー「大使」と思っています。

(サッチモが少年院で手にしたコルネットとともに)

ジャズ歌手 ヘレン・メルさん

お二人のジャズへの愛は世界のあちこちに影響を与えています。ルイ・アームストロングの音楽は、一緒に愛を運んできました。外山さん、ジャズにいぶきを与えてくださってありがとう。



ジャズ評論家 ダン・モーガンスタンさん

ルイ・アームストロングの音楽に長年捧げてきた貴方の活動と、ルイの故郷の若者たちを支えてきた素晴らしいサポートに『コングラッチュレーション、おめでとう』を贈ります。



ニューオーリンズ、タイムズ・ペキューン紙

シーラ・ストラウプさん

外山さん達ほどニューオーリンズの若いミュージシャンのために尽くした人はいません。また彼らは、ニューオーリンズ伝統のジャズを生かし続けるために多くのことをしてくれました。ワンダフルな受賞、おめでとうございます。



<フラワースタンドの生花もたくさんの方々から>



沢山のの方々からフラワースタンドの生花が贈られ、会場7、8階のハワイエなどに外山夫妻の功績を伝える各種資料とともに展示させていただきました。贈られたの方々のお名前のみここに掲げさせていただきます。(順不同)

Team Takahashi & Team Sasaki、一般社団法人 日本ポピュラー音楽協会、湯川れい子様、(株)ハンズオン・エンタテインメント代表取締役社長 菊地哲栄様、ニューオーリンズジャズクラブ稲門会会長 星野正典様、片桐良行様、グレンミラー生誕地協会日本支部代表 青木秀臣様、多賀弘明様、新宿ジャズスポット J バードマン幸田様、(株)グローバル 代表取締役社長 福田慎一様

<代表発起人>

中村 宏(医学博士・ジャズ評論家)
瀬川昌久(ジャズ評論家)

<発起人>(五十音順)

青木秀臣(グレンミラー生誕地協会日本支部代表)
青野浩史(青野音楽事務所)
石井一(日本ジャズ音楽協会会長 元国務大臣)
磯野博子(故いソノてルヲ氏夫人)
内田晃一(ジャズワールド編集長)
岡崎正通(音楽評論家)
奥山康夫(元オリエンタルランド専務)
後藤雅洋(いーぐる代表 ジャズ評論家)
小針敏郎(ジャズ評論家)
児山紀芳(ジャズ評論家)
佐藤修(日本ジャズ音楽協会理事長)
柴田浩一(横濱 JAZZ プロムナード・プロデューサー)
菅原昭二(一関ジャズ喫茶ベイシー店主)
高野孟(ジャーナリスト)
竹山洋(作家 脚本家)
タモリ(タレント、ジャズ愛好家)
露木茂(フリーアナウンサー ニュースキャスター)
富永照子(浅草おかみさん会理事長)
中平穂積(写真家)
永谷正嗣(新宿トラッドジャズ事務局長)
バードマン幸田(新宿 Jazz Spot J 店主)
藤岡靖洋(ジョン・コルトレーン研究家)
星野正典(早稲田大学ニューオーリンズ・ジャズクラブ稲門会会長)
前田憲男(ジャズピアニスト 作編曲家)
松坂妃呂子(ジャズ批評)
松村善一(東京九段ライオンズクラブ)
水森亜土(画家 ジャズ歌手)
三森隆文(ジャズジャパン編集長)
森忠彦(㈱日成役員)
山口真一(早稲田大学高等学院同窓会理事長)
悠雅彦(ジャズ評論家)
湯川れい子(音楽評論家)
吉原郷之典(うつのみやジャズのまち委員会会長)
日本ルイ・アームストロング協会理事一同

WJFスタッフ: 奥村清文、山口義憲、相馬威宣・浩子、細川ハテミ、小泉良夫・富子、渡辺研介、外山洋一、香川光彦、大和田浩・守、廣津和代、粉川いくみ

<ヤマハホール関係>

ヤマハホール

運営: 笹生英子 **音響:** 矢野忠邦 **照明:** 本田祥子

舞台監督:

有働英章

音響: エヌアンドエヌ 栗山大介、高橋美月

チラシ・プログラムデザイン: 坂井俊彦

印刷: (株)アップス 関 喜和

構成: 外山喜雄・恵子

台本: 山口義憲

北村英治さんを迎えて外山喜雄とデキシーセインツなど5バンドが競演

「新春！デキシーランド・ジャズ・ジャンボリー」華やかに開催

1月13日、東京・目黒のめぐろパーシモンホール大ホール

♪年のはじめの ためしとて…。今年も出演5バンド全員によるフルバンドの前に出た外山喜雄さんによる「一月一日」の独唱で2018年1月13日、東京・目黒区のめぐろパーシモンホール大ホールにおける「新春！デキシーランド・ジャズ・ジャンボリー」(主催：一般社団法人日本ポピュラー音楽協会、監修：瀬川昌久)は幕を開けた。今回のテーマ曲は1933年、デューク・エリントンが取り上げてリバイバル・ヒットとなり、ディック・ミネによる日本語カバーですっかりおなじみになった「リンゴの樹の下で」。5バンドがそれぞれ特徴を生かした演奏を繰り広げ、ついつい一緒に歌いたくなってしまうでしたね。

(文：小泉良夫、写真：相馬威宣、小泉)

外山さんの「一月一日」独唱で幕あけ
来年もみなさんと声を揃えて歌って！

♪年の始めの 例(ためし)とて
終(おわり)なき世の めでたさを
松竹(まつたけ)たてて 門ごとに
祝(いお)う今日こそ 楽しけれ

午後2時15分開場で、待ちかねたファンが続々と会場入り。ホワイエ(ロビー)のクロークを借りた出演バンドのCDなど物販も人気を呼んで大変な賑わいを見せる。“在庫一掃セール”といった感じの外山さんの関連CD、書籍もなかなかの売れ行きで、お手伝いのWJFスタッフは大忙し！

午後3時開演。各バンドのトロンボーン5人衆による開幕ファンファーレに次いで今年も外山さんの「一月一日」独唱、さらに聴衆も含めた大合唱となり、トップの有馬靖彦とデキシージャイブ(写真①)へとつないでいく。



このバンドには、しばしばセインツとも共演している下間哲さん(tp)が今年も熱演。2番手はデキシーキャッスル(写真②)。ここは何といってもリーダーの青木研さん(bj)が秀逸。ドラムの山本勇さんは、ニューオリンズへのサッチモの旅でも、ご一緒したことがありましたね。休憩を挟んで3番手

は中川喜弘とデキシーサミット(写真③)。ここではニューヨークから帰国した直後という中川さんのご子息で、世界的なトロンボーン奏者、中川英二郎さんが今年も加わり、素晴らしい演奏を聴かせてくれた。

さあ、4番手にお



待たせの外山喜雄とデキシーセインツ(一番上の写真)の登場。演奏に先立って中川さんのインタビューに答えて外山さんが、このたびのジャズ大賞と文部科学大臣表彰を報告(写真左)し、会場から祝福の盛大な拍手が上がり、花束プレゼントも。外山さんは常々、先輩諸氏に先駆けて受賞したことに恐縮され

ていたが、どうしてどうして表彰状にもあったように外山夫妻の国際貢献は多大なものがあります。どうか胸を張っていきましょう。

演奏は、今年の戌年にちなんで“ホワット・ア・ワン！ダフルワールド”でスタート。メンバーは外山喜雄(tp,vo)、恵子(p,bj)、広津誠(cl)、粉川忠範 (tb)、藤崎羊一(b)、サバオ渡辺(ds)のみなさん。2曲目は「Struttin' With Some Barbeque」…この曲はかつてスタッフとして例会などで裏方として働いてくださった肥塚重雄さんからのリクエスト。肥塚さんは闘病中でこの日、お婿さんに連れられて車いすで会場に来られ、久々に外山夫妻やスタッフの



皆さんと再会(写真左)

して歓談、翌日「昨日はありがとうございました。久しぶりに生演奏に感激いたしました。それにしても僕なんかの為に会場の皆様にお話し下さったことに驚きと感謝で胸が熱くなり涙が出ました。婿は帰りのタクシー運転手に誇らしげに話していました。妻にも話したら感激いたしました。本当にありがとうございました。ヤマハホールが楽しみです」とのメールが外山夫妻あてに送られてきた。

次いで演奏は、テーマ曲の「リンゴの樹の下で」(下段に歌

♪リンゴの樹の下で
明日また会いましょう
黄昏赤い夕陽
西に沈む頃に
楽しく頬寄せて
恋をささやきましょう
真紅に燃える想い
リンゴの実のように

詞)、恵子さんをフィーチャーした「ワシントン広場の夜はふけて」、「Bye Bye Blues」…と、会場を魅了させる熱演が続いた。ここで休憩。

しんがりには**菌田憲一とデキシークィングス(写真下の右)**。こ



♪リンゴの樹の下で…恋をささやきましょう
…と恵子さんにささやきかけて歌う外山さん

この日唯一の女性ボーカリスト、FUMIKAさん(リーダー、菌田勉慶さんのお姉さん)は美貌を生かして物販などでも大活躍していた。今年もこのグループにクラリネットの巨星、北村英治さん(88歳!)が、元気に加わって「Old Rugged Cross」、「Shine」を熱演した(写真下の左)。

フィナーレは出演者全員による圧巻のオーケストラ演奏(指揮:中川喜弘=写真下の中央)で「錨をあげて」、「I'm Getting Sentimental

Over You」(中川英二郎さんをフィーチャー)、「Alexander's Ragtime Band」(FUMIKAさん同)、そして「Sing, Sing, Sing」(北村英治さん)。ここでは5バンドのドラマー全員が入れ代わり立ち代わり加わっての壮大なドラム競演が聴衆の耳を奪った。ファイナルはもちろん「聖者の行進」。北村英治さんはじめバンドの皆さんがステージを降りて会場を巡回(写真下段2枚)し、大喝采を浴びて、なんと予定の終演をオーバーして午後7時過ぎ、約4時間にわたる感動的なジャンボリーの幕を閉じた。



秋満義孝、五十嵐明要両氏ともども

外山喜雄さんに「文部科学大臣表彰」

1月15日、文科省大臣室で晴れの表彰式

その知らせは昨年12月25日、文化庁から外山邸に電話で伝えられた。「なんとも素晴らしいクリスマス・プレゼントでした」と外山夫妻。「文部科学大臣表彰」の報告だった。9月30日、一般社団法人日本ジャズ音楽協会(石井一会長)からの「ジャズ大賞」に次いで、その喜びも冷めやらぬ平成30年1月15日、外山喜雄さんに今度は晴れの「文部科学大臣表彰」

が贈られた。この晴れがましい表彰式の席に小泉良夫・富子と相馬威宣・浩子夫妻らも馳せ参じ、そのすべてをしっかりと取材、写真、ビデオに収めてきた。

(小泉良夫、写真:相馬威宣)

表彰式は午前11時から文部科学省11階

の大臣室で行われた。林芳正大臣がこの日表彰するピアニストの秋満義孝さん(88)、アルトサクソ奏者の五十嵐明要さん(85)、外山喜雄さん(73)を大臣室入り口で出迎える。文化庁次長の中岡司氏、文化庁長官官房政策課長の杉浦久弘氏らもお三方を出迎える。

お三方が揃ったところで、さっそく林大臣が順に表彰状を読み上げた。外山さんの表彰状にこう書かれていた。

あなたは永年にわたりジャズトランペット奏者として活躍するとともに音楽を通じた国際交流に多大な貢献をされましたここにその功績をたたえ表彰します

ついで大臣と表彰された方々との歓談。ここで私たちは退室となった。



林大臣から表彰状を受ける外山さん(左)



写真左から秋満さんご家族、五十嵐さんご家族、林大臣、外山夫妻



表彰式の後、大臣室で大臣を囲んで表彰された方々、そしてご家族をも加えての記念撮影が行われ、

表彰式を終えて、近くのレストランで外山夫妻を囲み、皆でお祝いし、歓談した際、この日、記念品として大臣からいただいた内閣の紋章入り銀杯を見せていただいた。誇らしげに寄り添い、銀杯を差し出すお二人。なんとも微笑ましいお二方でした(写真一番下中央)。

ところで林大臣は音楽がお好きと伺っていたので、ちょっとぴりネットのホームページなど閲覧していくと、何とも素

晴らしい話題が満載されていました。

林文科相は97年、山本一太参院議員と国会議員バンド「Gi!nz(ギインズ)」を結成。現在は林大臣と小此木八郎国家公安委員長、松山政司・1億総活躍相の3閣僚と、浜田靖一・衆院予算委員長がメンバーになっている。

全員がボーカルを担当、林大臣がピアノ、松山氏はギターを担当。林大臣は作詞作曲も行い、05年1月にはアルバムも発売し、2枚目も作りたいが多忙のため実現できていないとか。13年、14年にはライブも開いている。

「林大臣はとっても甘

い素敵な声の持ち主です」といった称賛の声もみられた。さらに驚いたことには、昨年11月発足した第4次安倍改造内閣では、メンバー4人中、3

人が入閣し、永田町で『ギインズ内閣』だ」と話題になっているほど。将来はこのなかから総理大臣も…という声もあったほど。



ギターを弾き甘い声で歌う林大臣

**デキシーセインツの演奏、抽選大会、飛び入りコーナー…お楽しみ一杯
3年ぶり！久々のWJF懇親クリスマスパーティー開催
ちよっぴり早めに12月17日、オリエンタルホテル東京ベイのHUB浦安店**

ここ2年間やっていなかったんですってねえ、WJF懇親クリスマスパーティー、3年ぶり、久々の開催です。今回は例年よりちよっぴり早く12月17日の開催。みなさん待ちかねたようにJR京葉線新浦安駅に隣接するオリエンタルホテル東京ベイの新装なったHUB浦安店に三々五々笑顔で参集、若い方も増えて、デキシーセインツの演奏、クリスマスランチ+ドリンク、抽選大会、お客様飛び入りコーナーなどを存分に楽しめました。 (聞き書き:小泉良夫、写真:相馬威宣さん他)

**武者修行から50年を外山夫妻が振り返る
「ジャズ大賞」受賞のお礼、中村さんの乾杯**

午後0時半、開場とともにフリードリンクもスタート、WJF

のスタッフらがすでに店内のクリスマスの飾りつけを終え、華やかさが会場いっぱい広がるなか、パーティーは午後1時、開演した。まずは外山夫妻の挨拶(写真右)。



1967年12月、横浜山下ふ頭から移民船ブラジル丸に乗り、ニューオーリンズへ旅立ってから今年は50年。永年にわたるファンの皆様の応援への感謝と、ジャズレコード100年記念3回シリーズ・コンサートの報告、そしてジャズ



ズ大賞受賞へのお礼の言葉



葉が述べられた。続いてWJFの名誉会長ともいえる中村宏さん(医学博士、ジャズ評論家)による乾杯のご発声(写真左2段目)、「高橋組」高橋良子さんから花束贈呈(同3段目)、クリスマスランチも始まり、ドリンクは3時間飲み放題でカウンターに行列ができる。お客様のテーブルには、水越



有造さん(会員)から今回も頂いたサッチモの顔をあしらった金太郎飴が配られていた。

**セインツのクリスマスソングでスタート
「お客様飛び入りコーナー」6人が熱演**

サッチモのクリスマスソングBGMが会場の雰囲気盛り上げ、セインツのクリスマスソング、「ジングルベル」「ホワイトクリスマス」「赤鼻のトナカイ」などの演奏で大いに盛り上がった(同4段目)。この日の出演は、外山喜雄(tp,vo)、外山恵子(p,bj)、広津誠(cl)、粉川忠範(tb)、藤崎羊一(b)、サバオ渡辺(ds)のおなじみの皆さん。セカンドステージは、サンタの衣装の外山さん、藤崎さん、他のメンバーもサンタの帽子をかぶりパレードで入場…粉川さんは、トナカイの帽子でした。

恒例の「お客様飛び入りコーナー」では今回、時間

の関係で6人に絞られたものの、出演者の皆さんが日ごろの練習の成果を存分に発揮してくださいました。お名前と演奏曲目は次の通り。



左上から時計回りに飛び入り出演者の皆

- 1) 大西正則さん (会員) アルトサクソ You always hurt the one you love
- 2) 女性ボーカル 中村亜海さん。私の青空

- 3) 男性同 石井修さん(会員) From Monday On
- 4) ハーモニカ 渋井誠さん、宇都宮からご参加、讚美歌から Amazing Grace
- 5) 渡辺研介さん(会員)スタッフ、主の御許近く歩まん (Just a Closer Walk with Thee) クラリネット!
- 6) 伊藤咲子さん スタッフ Tサクソで、All of Me

日本ジャズ音楽協会長、石井一さんから祝辞 サプライズ「On the Sunny Side of the Street」

飛び入りコーナーが終わったところで、お忙しい中を秘

書で日本ジャズ音楽協会事務局の山内春彦さんとともに、ご出席くださった(国務大臣など要職を歴任)が登壇され、「佐藤さん、ちょっとあなたも



上がって…」と同協会理事長の佐藤修さんをステ



ージに呼ばれ、並んで外山さんが先に受賞された「ジャズ大賞」の祝辞を述べる(写真上の上段)。そのあとがまたまたのサプライズ。

「わしも若い時はバンドを組んでおってな、みんな若くてハンサム揃い、石井一とホット5ならぬ、ドギー5!! ようもてたもんですは!」と自慢話。外山さんに「先生、是非一曲!」と飛び入りを促され、「いつものマイウェイはいかがでしょうか?」との問いに、「いや、あれは前もやっただろう、わしは、レパートリーはいくらでもあるんじゃ!」と、今回のボーカルは「On the Sunny Side of the Street」。お得意のスキヤットを交えて熱演(写真上の下段)、出席者全員大いに盛り上がらせて、次の抽選会へと移りました。

お楽しみの特別景品が当たる抽選大会 話題の書籍やサッチモのCDマガジン…

お楽しみの特別景品が当たる抽選大会。ディズニー関連グッズや中村宏さんの名著「ジャズを求めて60年代ニューヨークに留学した医師の話」、若林千鶴さん翻訳の、少年時代のサッチモを活写した「はばたけ、ルイ!」、CDマガジン「ルイ・アームストロング」など、素敵な景品がいっ



ぱい。このCDマガジンは小学館から出ているジャズボーカル・コレクション・シリーズの一冊。四谷の有名ジャズ喫茶「いーぐる」店主でモダンジャズの

評論家として大活躍されている後藤雅洋さんが、すっかりサッチモの魅力に取りつかれ素晴らしい選曲と解説を書い

ていて、外山さんがその『サッチモ論』に感激し、景品の目玉となったもの。モダンジャズ界の方がサッチモの大ファンになってくださるのは、本当に嬉しいことです!!!

外山夫妻と伊藤咲子さんがステージに上る。今回は毎度、司会などで奮闘されていた山口義憲さん



この素敵なケーキ(下)を作ったパティシエ、長田学さん(中央)と外山夫妻

(会報「ワンダフルワールド通信」編集長)が所用で来られず、外山さんはスタートから恵子さんともども司会、進行、演奏、BGM、CD、



DVDの操作、抽選担当から飛び入りの伴奏と…「頭がこんがらがってしまうほど」(外山さん)の大奮戦。にぎやかなじゃんけん大会も繰り広げられた(上段の2枚)。

「高橋組」高橋良子さんらから特性の大ケーキ 佐々木葉子さんら同組の皆さんも応援に集まる

この日、最高の注目を浴びたのが、特大、特性ケーキの登場だった。浦安HUBで毎回、セインツのライブを楽しまれている、自称「高橋組」の高橋良子さんを中心になってプレゼントして下さったもの。巨大チョコレート板できたピアノにトランペッターのシルエット、“ジャズ大賞受賞おめでとうございます”とのメッセージも入り、ピアノの鍵盤、そこここにミニチュア・トランペットもあしらわれていた。作ったのはオリエンタルホテル東京ベイのパティシエ、長田学さん。とても芸術的！（前頁に写真）

「高橋組」の高橋良子さん、事務局の佐々木葉子さん（写真右、上が佐々木さん）ほか、日本ルイ・アームストロング協会の例会にも毎回出席の、セインツ応援団の皆さん！「高橋組」のお仲間も集まってパーティーを盛り上げて下さった。



樋口加鶴夫さん(b)がフィナーレで演奏に参加 傘を手に手に場内をセカンドラインの大打進

飛び入りコーナーで番外もありました。演奏していただくスポットがなかった会員の樋口加鶴夫さん(b)。フィナーレとなったセカンドラインの大打進で、樋口さんがステージに上って、セインツの演奏に加わる。フィナーレは大いに盛り上がっていく。「この素晴らしき世界」やら、「サンタが街にやってくる」…日本語の歌詞を皆さん結構ご存じで、かわいい大合唱になる。そして、恒例のジングル、ジングル、ジングルベル…の掛け声で大興奮。皆さん一緒にメリークリスマス！ 大人気のサバオさんの名ドラムソロ「キャラバン」でまた盛り上がり、アンコールでもう一度。そしてしめやかに♪サ～イレントナイト、ホ～リナイト…と「きよしこの夜」の大合唱。トランペットのファンファーレに、イエー！と会場全体からの掛け声が入って、セカンドラインの大打進。傘を手に手に開場中が踊りまくり、練り歩き、すっかりニューオリンズになってしまった（写真上）。



佐藤修さん、磯野博子さんで大爆笑の中締め 「楽しい時間はあっという間…まるで新婚時代」

興奮が収まったところで佐藤修さん、磯野博子さん（故いソノテルヲ夫人）と、2016年になくなられたサーチャールス・トンプソンさんのご夫人、牧子トンプソンさんがステージに上り中締め（写真下）。「楽しい時間はあっという間に過ぎます…まるで新婚時代のように！」という佐藤さんの第



一声に、場内、爆笑。

実に楽しい3年ぶりの日本ルイ・アームストロング

協会のクリスマスパーティー。サッチモの演奏するクリスマスソングのBGMが高らかに響く中、大成功のうちに終了。お客様は全員に行きわたった抽選の景品を手に笑顔で帰路へ。また来年も、お会いできるといいですね。

＜外山喜雄・恵子夫妻からのメール＞

お陰様で、皆さんに楽しんでいただけたパーティーになり、ほっとしています。バンドも、演奏しながら自分たちも楽しかったです！メンバーの皆さん、いくみさん、広津ミツフィーさんも本当にありがとうございました！

司会と演奏、その他もろもろ担当して、夫婦ともちょっぴり疲れましたが、それなりにエンジョイしながら、乗り越えました。なんたって、お客様があんなに喜んで元気をもらってくださるのが、一番の癒しです！喜んでもらい、世の中のお役にも立てて（笑）、疲れもふっ飛びます。

石井一さんのお話も傑作でしたし（お忙しいのに、本当にありがたいことです）、歌も歌っていただいて皆さん大喜びでした。佐藤修さんも、本当に楽しくてありがたいです。ご本人の締めのあいさつ「楽しい時間はあっという間に過ぎます…まるで新婚時代のように」が、めちゃくちゃ受けて、パーティーもこの上なく楽しく終了しました。また、浦安 HUB ほか、

いつも私たちの演奏を楽しみにしてくれている高橋良子さん率いる「高橋組」さん（…事務局長（笑）は、佐々木葉子さん。写真も送ってくれました。差し入れの特製特大ケーキ！！感激で涙が出そうになりましたヨ。オリエンタルホテル東京ベイのパティシエ、長田学さんが、凝りに凝って作ってくれたようです。

（このほかスタッフやお手伝いいただいた方々への、細やかな御礼がたっぷりと続きました）

今年の JAZZ JAPAN 誌12月号に寄せた外山さんの追悼文
ジョージ・アバキアンさん、ニューヨークで逝去、98歳
 外山夫妻とも強い絆で結ばれた伝説の大プロデューサー



アバキアンさん、安らかにお休みください!

1950年代!レコードは78回転のSPレコードからLPへ、そしてジャズはスウィングからモダンへと大変革を遂げていた時代。そんな時代にコロムビアという全世界に影響力を持つ大レコード会社の責任者として、ルイ・アームストロング、ベニー・グッドマン、デューク・エリントン、そしてマイルス、ブルーベック、エロル・ガーナー他多くのリアルジャズマンを世に紹介し、LPの普及とジャズというジャンルの確立に大きく貢献した大レコード・プロデューサーが、11月22日NYで亡くなった。ジョージ・アバキアンさん、98歳だった。

1919年3月15日、アルメニアに生まれ戦火で家族はアメリカへ移住、彼の活躍はエール大学の2年の時に始まっている。ジャズSPレコード数枚をセットにし、解説書を付けてアルバム発売する企画がレコード会社に採用されたのだ。解説書もジャズでは初で彼は『ライナーノートの父』とも呼ばれている。その後、サッチモ、ベッシー・スミス、ビックス・バイダーベックなど1920年代の音源を『ホット・ジャズ・クラシックス』シリーズでLP化。アバキアン氏によるジャケットの『ライナーノート』は、世界のジャズ評論に大きな影響を与えた。私は学生時代若き日のサッチモのホット5、ホット7等の名演の虜になっていたが、氏の解説に影響を受けた日本の先駆的評論家の方々が書く日本語ライナーノートや、ジャズ誌の記事に育てられた『孫アバキアン』だったことを痛感する。そんな『孫』が2003年、『親愛なる祖父』にニューオリンズで開催される

「サッチモ・サマーフェスト」出演でお会いし感激の対面、演奏を熱烈に気に入っていただき興奮が冷めやらなかった。以来彼と私たちは共通の絆『サッチモ命』で深く結ばれ、長い間ハートのこもった親密な間柄を続けさせていただいた。

1950年代、アバキアンさんは、葉の問題等を抱えていたマイルスを立ち直らせ、サッチモと並ぶ“バラード”の名手として評価しコロムビアと契約、ラウンド・アバウト・ミッドナイト、マイルス・アヘッドと続くメジャーからの大ヒットを次々リリース。デイブ・ブルーベックのLPはミリオンヒット、後にはキース・ジャレットもマネージャーを務めるなど、アバキ

追悼特集
 Requiescat In Pace
George Mesrop Avakian
 March 15, 1919 - November 22, 2017
 LPの普及とジャズというジャンルの確立に大きく貢献した大レコード・プロデューサー、ジョージ・アバキアン 外山喜雄

若き日のジョージ・アバキアン、William P. Gottlieb and Ira and Leonore S. Gershwin Fund Collection, Music Division, Library of Congress.

1950年代にレコードは78回転のSPレコードからLPへ、そしてジャズはスウィングからモダンへと大変革を遂げていた。そんな時代にコロムビアという全世界に影響力を持つ大レコード会社の責任者として、ルイ・アームストロング、ベニー・グッドマン、デューク・エリントン、そしてマイルス・デイビス、デイブ・ブルーベック、エロル・ガーナー他多くのリアルジャズマンを世に紹介し、LPの普及とジャズというジャンルの確立に大きく貢献した大レコード・プロデューサーが、11月22日NYで亡くなった。ジョージ・アバキアンさん、98歳だった。

アルメニアに生まれ戦火で家族はアメリカへ移住。彼の活躍はエール大学の2年の時に始まっている。ジャズSPレコード数枚をセットにし、解説書を付けてアルバム発売する企画がレコード会社に採用されたのだ。解説書もジャズでは初で彼は『ライナーノートの父』とも呼ばれている。その後、サッチモ、ベッシー・スミス、ビックス・バイダーベックなど1920年代の音源を『ホット・ジャズ・クラシックス』シリーズでLP化。アバキアン氏によるジャケットの『ライナーノート』は、世界のジャズ評論に大きな影響を与えた。私は学生時代若き日のサッチモのホット5、ホット7等の名演の虜になっていたが、氏の解説に影響を受けた日本の先駆的評論家の方々が書く日本語ライナーノートや、ジャズ誌の記事に育てられた『孫アバキアン』だったことを痛感する。そんな『孫』が2003年、『親愛なる祖父』にニューオリンズで開催される

若き日のサッチモのホット5、ホット7等の名演の虜になっていたが、氏の解説に影響を受けた日本の先駆的評論家の方々が書く日本語ライナーノートや、ジャズ誌の記事に育てられた『孫アバキアン』だったことを痛感する。そんな『孫』が2003年、『親愛なる祖父』にニューオリンズで開催される

サッチモと並ぶバラードの名手として評価しコロムビアと契約、『ラウンド・アバウト・ミッドナイト』『マイルス・アヘッド』と続くメジャーからの大ヒットを次々リリース。デイブ・ブルーベックのLPはミリオンヒット、後にはキース・ジャレットのマネージャーを務めるなど、アバキアン氏の功績でタイム誌やニューズウィーク誌のトップとなるような大スターとしての地位を確立したジャズマンは数多い。ソニー・ロリンズ、エロル・ガーナー、コロムレオンも同じ位はなかったら現代にまで続くジャズの発展はなかったかも知れない。

サンキュー・マスター・アバキアンさん、安らかにお休みください!

JAZZ JAPAN 誌12月号から

写真上は、若き日のジョージ・アバキアンさん、William P. Gottlieb/Ira and Leonore S. Gershwin Fund Collection, Music Division, Library of Congress.
 同下は、2003年、ニューオリンズのルイ・アームストロング公園(昔のコンゴ広場)に立つサッチモの銅像前で。左から、若き日にWJFから楽器を贈られ、今や超人気奏者に成長したトロンボーン・シヨーター(本職はtb)、外山喜雄、一人おいてジョージ・アバキアンさん

アン氏の功績でタイム誌やニューズウィーク誌のトピックとなるような『大スター』としての地位を確立したジャズマンは数多い。ロリンズ、エロル・ガーナー、コルトレン、、、もし彼がいなかったら現代にまで続くジャズの隆盛はなかったかも知れない！

サンキュー・ミスター・アバキアン、、、、、、安らかにお眠りください！

<蛇足>

アバキアンさんは『ライブ録音盤の父』とも呼ばれる。『ベニーグッドマン・カーネギーホール・コンサート(1938年)』のLP発売、サッチモがジャズ大使として世界をまわった『アンバサダー・サッチ』、『デューク・エリントン・アット・ニューポート』等のライブ盤はあまりにも有名だ！



2005年、当時のニューオリンズ日本総領事館で坂戸勝総領事から外山さんが外務大臣表彰を受けた際、ニューヨークから祝辞に馳せ参じて下さったアバキアンさんと



インターネット上にはアバキアンさんの画像が満載されている



2011年のサッチモの旅でNYを訪れた際、出演したジャズクラブでアバキアンさんと再会して喜び合う外山夫妻、

ご寄付と嬉しいお便り

九段ライオンズクラブ様から、1月10日、ホテル・グランドパレスでの新年会例会で、**アクティビティー賞5万円**をいただきました。もう毎年何年も頂いています。外山さんは仕事为重なり、理事の会報編集長、山口義憲さんが代理出席されました。



写真右は佐藤修さんからの素敵なサッチモの年賀状



2月15日付「下野新聞」(上)、右は2月13日「朝日新聞」栃木版から



このほか、東京新聞、毎日新聞など各紙で大臣表彰、「素敵な仲間たち」のコンサートのお知らせを掲載していただきました。ありがとうございました。

外山夫妻がTBSラジオに出演「荒川強啓 デイ・キャッチ！」



外山夫妻はまだ「素敵な仲間たち」の感動が冷めやらぬ2月12日(月)、東京・港区赤坂のTBSラジオクラウド「荒川強啓 デイ・キャッチ」番組に出演(写真上)し、トランペットの演奏も交え、20分間、WJFでの活動やこの度のジャズ大賞、文部科学大臣表彰などを話された。この放送の様子はTBSラジオクラウドでお聞きいただけます。

「JAZZ JAPAN」誌に素晴らしい記事が!



1953年、JATP来日の裏話、特集インタビューです! ジャズジャパン3ページ目に石井先生、佐藤さんのインタビューが掲載されています(写真上)。

VOL. 9 1 @ 2 / 2 日発行です。ジャズジャパン編集長、三森隆文さんから。

募集中

♪ジャズを愛する皆様
どうか会員になって下さい!!
また皆さまのお知り合いの方々に
ぜひ、WJF へのご入会をお勧め下さい

=WJF 年会費=

- 一般会員 (General Membership) ¥6,000
- 学生会員 (Student Membership) ¥3,000
- 賛助会員 (Friends of Louis Armstrong) ¥12,000

■会費のお振込先■

郵便振替 00110-4-415986

ワンダフルワールド・J・F

銀行振込 三菱東京 UFJ 銀行浦安駅前支店

普通:5175119“ワンダフルワールド”

お問い合わせ:WJF 事務局

TEL:047-351-4464

FAX:047-355-1004

Email:saints@js9.so-net.ne.jp

日本ルイ・アームストロング協会 HP

<http://wjf4464.la.cocacn.jp>

編集長から

「ジャズ大賞」と「文部科学大臣表彰」のW顕彰を祝う「外山喜雄と素敵な仲間たち」コンサートは満席の盛況 ▼開演ブザーとともに場内は暗転、暗闇の中トランペットが鳴り響き、スポットライトがステージのピアノ位置の2人、トランペットの外山喜雄とピアノの外山恵子を照らしました。オープニング曲は、ルイ・アームストロングの「ウエスト・エンド・ブルース」。お2人が歩んで来られた半世紀余のジャズ人生が凝縮されたデュオの演奏に、舞台袖で聴いていた私の目頭は熱くなりました ▼ニューオリンズ武者修行時代、日本でのバンド結成、そしてデキシーセイブのメンバー一人ひとりの個性あるソロリーダーチャー、東京デイズニードでの23年間のエピソードを伝えるステージに、外山夫妻はルイとニューオリンズとデイズニードで出来ているのだなあ!と改めて納得 ▼特別ゲストの前田憲男さんと水森亜土さんの心温まるお祝いの演奏にも感激しました ▼受賞を機に、朝日新聞、下野新聞、TBSラジオ荒川強啓「デイ・キャッチ」への生出演と生演奏などメディアを通じておふたりのジャズ人生がクローズアップされたことも、サッチモの愛を伝える「夫妻の面目躍如でありました。(山)